

えみ 江見印刷紙工 株式会社

紙製パッケージの提供で
「長く付き合える企業」に

納期相談
企画力自信有
コスト相談
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産対応



印刷工程の様子

業務内容
市場のニーズに合わせた
紙器を製造

「江見印刷紙工」は昭和2年に大阪市福島区で創業。主に百貨店を中心にお菓子や弁当向けの容器を製造している。「長く付き合える企業」を目指し、自社のスタイルやシステムを常に見直し変革を続けている。

市場のニーズに合わせた紙器製造で培った構造設計ノウハウを活用し、立体型のPOP製造も手がけている。平成23年からは食品衛生法の許可を取り、箱に食品を詰めるサービスを開始。包装に関するワンストップサービスを提供している。最近では設備投資にも注力し、品質管理と利益向上を狙い、新規設備の導入で内製率を上げている。

強み
柔軟性に富んだ体制と
スピードの速さ

紙器の一貫生産体制を確立し、短納期対応と試作のスピードの速さの2点が同社の強みだ。企画・設計をはじめ、試作品印刷、表面加工、打ち抜き加工、貼り加工、検品、組立、詰め加工という紙資材メーカーに求められるすべての工程をそろえ、柔軟性に富んだ体制を整えている。製造を自社内で完結することで、顧客ニーズに迅速に対応できる。

試作についてはCADソフトウェアを扱える従業員を育成し、容器の構造についての理解度を高めている。顧客との打ち合わせも円滑になり、他社では1週間かかる試作を同社では1〜2日で対応できるという。

品質向上
新鋭装置の導入で
容器の差別化を実現

新鋭の絵柄検査装置・色調自動制御装置



検品機で異物混入を防ぐ



食品包装向けアッセンブリも行う

を搭載したオフセット印刷機の導入で、業界最高水準の印刷品質で製品を提供できるようになった。また、装置にはUVニスコーターも搭載。菓子箱業界で高級感を演出する際に用いられる「UV印刷エンボス」を施すことが可能になった。

この印刷法は光線の加減でデザイン柄、文字、写真が立体的に浮き出て見え、従来にはない新たな感動を生み出すことができる。金型も必要なく、印刷のみで容器の差別化を図ることができる。

今後の展望
オリジナルの
生産管理システムを開発

自社オリジナルの生産管理システムの開発を進め、品質管理の向上を計画している。紙器パッケージを手がける他の中小企業は一部の加工のみを請け負うため、システムの導入で効率化を図る取り組みは少ないという。

一方、一貫生産を行う同社では数多くの工程をこなす必要がある。材料や各工程の情報を収集し、分析することで、各工程のさらなる効率化を目指す方針だ。同社の競争力を生産管理システムの導入でさらに強めることで、中小企業でありながら大企業に匹敵する販売・生産管理体制の確立を目指し、存在感を発揮する。

当社の歴史



当社は昭和2年に創業し、平成29年7月で90周年を迎えました。私たちは、「長く付き合える企業」になるための第一歩が常に顧客満足の先にあると確信し、顧客第一主義に徹しハード・ソフト両面で最新の技術を提供してきました。

代表取締役社長 **江見 昌久さん**

<http://www.emi-pr.co.jp/>

主な事業内容

紙製パッケージを企画設計から製造まで一貫して生産

主な取引先(納入先)

百貨店、老舗菓子メーカー、包装資材総合商社

●住所 〒581-0038
八尾市 若林町2-112
●TEL 072-948-0100
●FAX 072-948-1638
●創業 昭和2年7月
●設立 昭和28年7月
●資本金 1,000万円
●従業員 31名